

薬剤師の資質向上のための卒後研修と 生涯研修・専門性

オーガナイザー

山田清文(名大病院薬)
矢野育子(神戸大病院薬)

厚生労働省の「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」より、今後の薬剤師に求めるべき役割、今後の薬剤師の養成や資質向上等の課題について提言が公表されている(2021年6月30日)

薬剤師の資質向上に関しては、▽免許取得直後の臨床研修が重要であり、卒前(実務実習)・卒後で一貫した検討が必要であり、研修制度の実現に向

けて、研修プログラムや実施体制について検討すべき▽生涯研修として薬剤師認定制度認証機構の認証を受けた研修機関が実施する研修を活用すべき▽学会等で行われている薬剤師の専門性の認定の質の確保について検討が望まれる——と提言された。

本シンポジウムでは、これら三つの提言に関連するオピニオンリーダーをシンポジストに迎え、現状の課題を整理し、それぞれの課題を克服するための方策について議論を深める。

(山田清文)

中分子創薬研究のフロンティア

—ニューモダリティへの戦略展開

オーガナイザー

出水庸介(国立衛研)
大庭誠(京都府医大)

近年、低分子医薬品、バイオ抗体医薬品の両方の利点を併せ持つニューモダリティとして、ペプチドや核酸等の中分子医薬品が注目されている。ペプチド医薬品の歴史は古く、1960年代から生体由来のペプチドホルモンをはじめとする天然のアミノ酸のみから構成される古典的ペプチド医薬品が開発され、100品目以上が上市されている。

近年は、様々な非天然型アミノ酸を天然型ペプチドに組み込むことで、標的特異性や代謝安定性を高めた中分

子ペプチド医薬品開発が活発化している。核酸医薬品は、98年に米国でVitraveneが初めて承認されたが、生体内での安定性や有効性に課題が残されていた。しかしながら、修飾核酸やD D S技術の進展により核酸医薬品の開発が加速化し、2013年にMipomersenが上市されて以降、市場規模も年々拡大し、これまでに15品目が承認されている。

本シンポジウムでは、薬学系・非薬学系の先生方をシンポジストとしてお迎えし、次世代の創薬トレンドを見据えた中分子医薬品の新しい合成技術、分子修飾、D D S技術等について議論したい。

(出水庸介)

物理系薬学会シンポジウム

若い力で推進する物理系薬学

オーガナイザー

小田彰史(名城大薬)
加藤博章(京大院薬)

近年、新規な技術の開発や生命現象の解明など、薬学において物理化学の果たす役割は大きくなっている。基礎研究だけではなく創薬や臨床分析など、様々な領域において物理系薬学の研究者が活躍している。

本シンポジウムでは物理系薬学を専門とする若手研究者にご講演いただき、現在の物理系薬学を俯瞰すると共に、物理系薬学の将来についても議論したい。物理系薬学は実験・理論・計算の全てを含んだ非常に広い領域を取

り扱う分野であり、さらには薬学全体における基礎となる分野でもある。物理系薬学会奨励賞を受賞したこの分野を代表する若手研究者の講演に加え、物理系薬学の扱う分野の広さを実感できる多様な若手研究者による講演、討論を行う。

具体的には放射化学・分析化学・計算化学・構造生物学と多彩な領域の講演を用意しており、また基礎と応用の両方を視野に入れてご講演いただく予定である。これを機に、薬学を基礎まで掘り下げ、そしてその成果をまた薬学に還元する物理系薬学の魅力を伝えたいと願っている。

(小田彰史)

第6回病院薬剤師が実践するリバー ストランスレーショナルリサーチの最前線

—臨床薬学的観点から構築する個別化医療

オーガナイザー

増田智先(姫路獨協大薬)
伊東弘樹(大分大病院薬)
池田龍二(宮崎大病院薬)
城野博史(熊本大病院薬)

近年の目覚ましい科学技術の進歩に伴い、多様な臨床情報の取得が可能となり、治療標的分子の同定およびその機能を制御する分子標的薬が大きな成果を生み出しつつある。一方、実臨床においては、臨床試験で集積されたエビデンスだけでは解決できない症例も多く、臨床経験を有する薬剤師自らが

試行錯誤を繰り返しながら新たなエビデンスを創出することが、より適切な薬物治療の実践には不可欠である。

本シンポジウムでは、臨床と基礎の双方にチャンネルを有し、最先端の技術基盤に基づいたエビデンス創出を目指す薬剤師の創薬・育薬研究について、臨床薬剤師ならではの着眼点、いち早く臨床に還元し得る環境を生かした臨床薬学的研究の意義と重要性についてご紹介いただき、病院薬剤師が取り組むべき研究の現状、問題点、今後の展開について考えたい。

(城野博史)

タンパク質工学による創薬化学の新展開

オーガナイザー

森貴裕(東大院薬)
松田研一(北大院薬)

蛋白質は生命現象を駆動する根源的な物質であり、生体内のあらゆる反応を制御している。生体内機能性蛋白質、酵素の解析技術の飛躍的な発展により、高解像度で生命現象を理解可能になりつつある。次に考慮すべきはこの知見をいかに利用するかである。

蛋白質工学による人工酵素を利用した有用物質生産系の構築や、改変機能性蛋白質を利用したイメージング技術

は、世界的に注目されている研究分野である。本シンポジウムでは、酵素機能を人工的に改変し医薬品シードを創出する研究から、小分子と機能性蛋白質を利用した蛍光検出技術の開発研究まで、幅広い領域における蛋白質工学の創薬化学への応用研究を紹介する。

蛋白質工学研究に取り組んでいる化学、分子生物学、構造生物学といった異分野の最前線にいる若手研究者が集い、最先端研究成果を発表することで未来の学際研究の土壌となる分野横断的なコミュニティ形成を図る。

(森貴裕)

理事会企画シンポジウム

ブレイクスルーをどう創るのか?

オーガナイザー

石井伊都子(千葉大病院薬)

小・中・高・大学と男女共学の教室で同じ授業を受けてきた。そして、成長するに従い「何これ?はあ〜?」と幾度となく思った記憶が蘇る。22年も前の1999年6月23日に男女共同参画社会基本法が制定され、牛歩の如くであるものの社会は変化した。

しかし、世界「男女平等ランキング2021」において日本は120位=ワースト2位と不名誉かつ驚愕な結果であった。世界はさらに先に進んでいた。日本はずっと歪なのである。

今回のシンポジストである望月眞弓氏、亀井美和子氏、宮間三奈子氏は停滞した社会に一石を投じてきた方々である。また、森永雄太氏は、職場のダイバーシティを成果に結びつけるためには適正なインクルージョンの導入が必要であることを発信している。

憎きコロナ禍は良くも悪くも私たちの日常を一変させた。誰もが輝き、気持ちよく社会生活を送るためには、さらなるブレイクスルーが必要なのである。このシンポジウムを通し、視聴者の皆さんと一緒にブレイクスルーを考えたい。

(石井伊都子)

医療者のための 質的研究 はじめの一歩!!

—数値で表しきれないデータを読み解く—

[編者] 片岡 竜太(昭和大学歯学部 スペシャルニースロ口腔医学講座歯学教育学部 教授)
渡邊 洋子(新潟大学 創生学部生涯教育学 教授)



対象者へ現象に関する聴き取りを行い文章化して、どのような効果や問題があるのかを理解しようとする「質的研究」。本書は、なぜ医療者に質的研究が必要なのか、またその考え方・アプローチ方法などの基本をわかりやすく解説し、実際の研究事例も紹介した入門書です。

A5判/106頁/定価 2,200円(本体 2,000円+税10%)



薬事日報社

書籍の詳細・ご注文はURLまたはQRコードから
オンラインショップへ ⇒ <https://yakuji-shop.jp/>

伝統と経験を未来へ

テイコク漢方



医療用漢方製剤

47品目 薬価基準収載

●包装/42包入・252包入・500g

販売元 帝國製薬株式会社
香川県東かがわ市三本松567番地

製造販売元 帝國漢方製薬株式会社
徳島県阿波市土成町土成字北原80番11

〈製品情報お問い合わせ先〉
医薬営業部 製品情報室
TEL: 0120-189-567

受付時間/月~金 9:00~17:30(祝日、当社休日を除く)

☎ KAN-04-1-1711